

## 四日市市学力向上アクションプラン 進捗管理（平成28年度）

### ○ アクションプランの計画期間と評価

概ね5年（平成28年度～平成32年度）を計画期間とします。

プランの実施にあたっては、第3次学校教育ビジョンの基本目標1「確かな学力の定着」における成果指標に基づいた評価を行います。これによって、プランがより実効性を発揮し、子どもたちに確かな学力が定着するよう進捗管理を行います。

また、学校施設整備など、教育環境の充実のための具体的な施策の実施にあたっては、本市第3次推進計画（平成29年度～平成32年度）と連携しながら進めていきます。

（四日市市学力向上アクションプランより抜粋）

# 1 平成28年度 アクションプランの評価

プランの実施にあたっては、第3次学校教育ビジョンの基本目標1「確かな学力の定着」における成果指標に基づいた評価を行います。

## 基本目標1 「確かな学力の定着」

指標① 基礎的・基本的な知識及び技能

指標② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力

指標③ 学ぶことと社会とのつながりを意識しながら主体的に学習に取り組む意欲と態度

基本目標	成果指標		現状値(※)	H28	目標
1. 確かな学力の定着	① 全国学力・学習状況調査結果 (小6…国A、国B、算A、算B) (中3…国A、国B、数A、数B) 全国平均値を100としたときの全 科目の市平均値	小	97.4	100.5	102
		中	101.3	102.0	105
	② 「学級の友達との間で話し合う活 動を通じて、自分の考えを深めたり、 広げたりすることができている と思いますか」において、肯定的な 回答をした児童生徒の割合	小	63.2% (全国 66.9%)	67.9 (68.3)	80%
		中	65.6% (全国 62.9%)	67.0 (64.8)	80%
	③ 「授業で学習したことは、将来、社 会に出たときに役に立つと思いま すか」において、肯定的な回答をし た児童生徒の割合	小	89.5% (全国 89.5%)	91.4 (89.6)	95%
		中	79.3% (全国 78.4%)	81.3 (78.1)	85%

(※) 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

- ① 平成28年度は、全国学力・学習状況調査が始まって以来、初めて、本市小学校の国語・算数の全国比の平均値が100を越えた。平成25年度1月から、全市的な「学力向上」の取り組みを進め、各学校において結果の分析や授業改善が図られたことが、要因のひとつとしてあげられる。今後も全市的な取り組みを継続し、目標値に近づけていく。
- ② 現状では、目標値と比べると、小12.1ポイント、中13.0ポイント下回るが、上昇傾向である。上昇の要因として、全市的な取り組みの中で、自分の考えを表現する授業の実践を推進し、浸透しつつあることがあげられる。引き続き、授業における話し合い活動などを充実させると同時に、子どもたちが話し合い活動に有用性を感じられるよう授業改善を進める。
- ③ 小・中ともに28年度は27年度から2ポイント程度上昇している。さらに学習意欲を高めるため、実生活における事象と関連を図った課題提示の工夫など、教室の学びと実社会とのつながりを子どもが意識できるよう授業改善を進める。

## 2 学力向上のための二つのアクションの進捗

### (1) アクション「学びの質の向上」について

【総括】学ぶことと社会とのつながりを意識させる体験活動や、表現力をみがくための言語活動など、各校において学びの質を向上させる取り組みが充実した。それによって、子どもが主体的に学習に向き合う場面が増え、基礎学力の向上につながった。今後は、児童生徒一人ひとりの実態や課題をふまえ、さらに一步踏み込んだ授業改善が必要である。

【おもな成果と課題】

○考える力や資料を活用する力を伸ばすための授業改善が広まった。(指導主事の報告より)

「全国学力・学習状況調査」等の結果分析に基づく授業改革、『問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック』の活用推進協力校を中心とした授業の見直し、などによる成果である。さらに、児童生徒一人ひとりの思考力や表現力の向上にどうつなげるかが課題である。

○「中学生スピーチコンテスト THE BENRON」を開催した。

出場者それぞれが伝える力を駆使し、日頃の言語活動の成果を披露することができた。コンテストの主眼は、本事業が出場者以外の生徒の表現力を高める刺激となることであるため、一部の生徒のためのコンテストにならないような活用の工夫が必要である。

○博物館や四日市公書と環境未来館の活用(四日市の地域資源の教育への活用)が進んだ。

全小学校(5年生)と全中学校(3年生)が本施設を訪問した。また、学校関係者や市職員らによる「そらんぼ四日市」活用検討委員会を立ち上げた。今後も、本市の地域資源や公害対策モデル都市としての歩みを学習活動に生かすため、学校との連携をさらに深めていく。

### (2) アクション「学びの環境の充実」について

【総括】特別教室への空調設備整備やICT機器活用の推進により、一人一人の子どもの能力を引き出すための環境整備が進んだ。次期学習指導要領の改訂を見据え、特に英語教育においては、指導体制の確立や専科教員の配置の工夫など、時代の変化に対応した教育環境の充実に向けてさらに施策を推進する必要がある。

【おもな成果と課題】

○四日市市小中学校普通教室空調設備検査検討業務委託により、PFI方式の採用が決定した。

平成32年度からの供用開始を目指し、計画を推進する。

○教員が授業でICTを活用している割合が97%となった。

教員の活用の現状をふまえ、ICT機器の維持管理と活用のための支援を行う。今後は「ICTが学力向上にどのような効果をもたらすか」を研究していくことが必要である。タブレット端末の活用については、国の動向もふまえながら、活用方法の研究と導入の検討を引き続き行う。

○全中学校で、CAN-DOリストの作成が完了した。

授業のねらいに「英語を用いて何ができるようにするか」が明確に位置づけられた。これによって、次年度から全中学校においてCAN-DOリストを活用した授業が実施される。

今後は、英語教育実践校区での取り組みの成果を、市内小学校に普及・啓発していく。

### 3 具体的な六つのアクションの進捗

#### ACTION1 確かな学力定着のための授業改革

基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、『問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック』（四日市モデル）を活用した授業実践事例を作成し、アクティブラーニングを活用した授業改革に取り組みます。

（指導課・教育支援課）

おもな施策	実施内容
全国学力学習状況調査及び到達度検査の結果分析に基づく授業改革	① 全国学力・学習状況調査分析冊子の作成 ② 校内研修会への指導主事の派遣（延べ267回） ③ 学力向上のための研修会の実施（小1回、中2回、参加延べ120名） ④ 成果のあった学校の実効ある取組例紹介（9月校長会） ⑤ 到達度検査等（CRT）の実施
優れた指導方法の共有による教員の指導力向上	① 『問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック』の改訂版の発行（3月） ② 『教員用 授業づくり ヒント&ポイント』（1月発行）を全教員に配布 ③ ノート指導・板書活用のための研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・板書の優れた実践を紹介（リーフレット活用）</li> <li>・若手教員を対象に具体的な指導方法を研修（計10回 参加者662名）</li> </ul> ④ 学びの一体化を生かした小中連携した学力向上の取り組み <ul style="list-style-type: none"> <li>・富田中学校区公開研究会 10/6（参加126名）</li> <li>・橋北中学校区公開研究会 11/29（参加67名）</li> </ul>

#### 【取り組みの進捗】

取組内容	H28	H29	H30	H31	H32	目標水準
全国学力・学習状況調査分析冊子作成	冊子作成	冊子作成	冊子作成	冊子作成	冊子作成	全ての小中学校で、全国学力・学習状況調査や到達度検査の結果分析に基づく授業改善が行われている。
指導主事の派遣	延べ267回	延べ250回	延べ250回	延べ250回	延べ250回	
学力向上のための研修会の実施	小学校1回 中学校2回	小学校1回 中学校1回	小学校1回 中学校1回	小学校1回 中学校1回	小学校1回 中学校1回	
到達度検査等の実施	CRT実施	NRT実施	NRT実施	NRT実施	NRT実施	
ガイドブック活用推進協力校の数	5校指定 (のべ5校)	5校指定 (のべ10校)	5校指定 (のべ15校)	5校指定 (のべ20校)	5校指定 (のべ25校)	問題解決能力のための授業づくりガイドブックや優れた指導方法の共有によって、教員の指導力向上が図られている。
「授業づくりヒント&ポイント」の発行	年2回発行	年3回発行	年3回発行	年3回発行	年3回発行	
若手研修会の実施	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	

## ACTION2 思考力・判断力・表現力を高める言語活動の充実

論理的思考とコミュニケーションの基盤である言語を使いこなす能力を高めます。

的確に相手に伝わる表現を意識させる取組を進めて、1分間コメントや弁論大会など、表現力を磨く機会を充実させます。

(指導課・教育支援課)

おもな施策	実施内容
授業における言語活動の充実	① 学力向上のための研修会の実施（小1回、中2回、参加延べ120名） ② 道徳公開授業研究会の開催 大池中学校区公開研究会 11/17（参加98名）
言語をつかいこなす場の設定	① 中学生スピーチコンテストTHE BENRONの開催 ・開催 8/20 市内中学生25名参加（公立全22校、私立3校 計25校） ・THE BENRON 発表原稿集の配布 ② 1分間コメントの積極的な実施 ・読書活動推進校の効果的な取り組み発表 2/9（全校担当者参加） ・取り組み事例集配布 ・読書推進校への指導主事派遣・指導助言（対象6校、年2回）

### 【取り組みの進捗】

取組内容	H28	H29	H30	H31	H32	目標水準
学力向上のための研修会の実施	小学校1回 中学校2回	小学校1回 中学校1回	小学校1回 中学校1回	小学校1回 中学校1回	小学校1回 中学校1回	全ての小中学校で、思考力を深めるための言語活動を取り入れた授業が行われている。
道徳教育総合支援事業における推進校の指定	1校	1校	1中学校区	1中学校区	1中学校区	
中学生スピーチコンテストの開催	年1回開催	年1回開催	年1回開催	年1回開催	年1回開催	コミュニケーションと論理的思考の基盤である言語を使いこなす場が設定されている。
読書推進校の指定	6校指定	6校指定	6校指定	6校指定	6校指定	

### ACTION3 四日市の地域資源の教育への活用

産業、環境、港等、四日市の特長である地域資源を教育へ活用する仕組みを構築します。また、キャリア教育の視点を生かした企業等との連携を進めます。

(教育支援課・指導課・博物館)

おもな施策	実施内容
四日市の地域資源活用のための教材等の整備や啓発	① 博物館・プラネタリウムの積極的活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史学習（実物展示を利用した学習展開）（44校 2770名）</li> <li>・中学3年生対象の学習投映の実施（22校 2827名）</li> <li>・各小学校の実態に合わせた体験的学習投映の実施（30校 2282名）</li> <li>・小学5年生対象環境番組「アースメッセージ」の投映（29校 1925名）</li> <li>・中学生への学習参加券の配布（利用校22校 932人）</li> </ul> ② 久留倍官衙遺跡の学習への活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年夏季講座として新規採用教員・一般教員対象に研修会を実施</li> </ul> ③ 小学校3・4年生用副読本『のびゆく四日市』の改訂           ④ 企業との連携による出前授業・社会見学の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業出前授業・・・小9校、中4校 社会見学・・・小25校（いずれものべ校数）</li> </ul>
キャリア教育の視点を生かした企業等との連携	① 地元企業や JAXA（宇宙航空研究開発機構）との連携授業を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・JAXA 連携授業（平成28年度は小4校、中5校）</li> </ul>
公害対策モデル都市としての本市の歩みを教育へ活用	① 公害対策モデル都市としての歩みの教育への活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・四日市公害と環境未来館を活用した学習の実施（全小5年生、全中3年生）</li> <li>・全小中学校における四日市版ESDカレンダーの作成</li> <li>・教職員向環境教育 ESD 講座の実施 7/26（小）、7/28（中）（各校担当）</li> </ul>

#### 【取り組みの進捗】

取組内容	H28	H29	H30	H31	H32	目標水準
博物館の活用	全小中60校が見学	博学連携研修の充実	見学プログラムの改善	博学連携モデルの教材化	博学連携学習の充実と推進	四日市ならではの地域資源を活用した授業づくりが進んでいる。
久留倍官衙遺跡の学習への活用	活用計画書の作成	活用計画書の発行	教員向け研修会の実施	教員向け研修会の実施	教員向け研修会の実施	
四日市の地域資源を楽しく学べるガイドブックの作成	資料収集	作成作業	作成作業	電子版をデータベースに掲示	各校で活用	
のびゆく四日市の改訂	年次改訂	年次改訂	年次改訂 大改訂準備	年次改訂 大改訂準備	大改訂版（新学習指導要領準拠）発行	
企業や JAXA の連携授業を1回以上受けた学校（H27 起点）	24校	32校	40校	45校	50校	
四日市公害と環境未来館の活用	全小中60校が見学	全小中60校が見学	全小中60校が見学	全小中60校が見学	全小中60校が見学	公害対策モデル都市としての歩みを授業で活用する

## ACTION4 空調設備整備による良好な学習環境の充実

これまでに例をみない程の猛暑等の発生により良好な学習環境が保てないという課題を克服するため、普通教室の空調設備整備を進め、快適な学習環境を整えます。

(教育施設課)

おもな施策	実施内容
普通教室への空調整備による良好な学習環境の充実	①平成28年度「四日市市小中学校普通教室空調設備検査検討業務委託」を実施 ・空調設備の早期導入、整備の順番の平等性、財務負担の平準化、効率的な維持管理などを検討→最適な整備手法としてPFI（BTO）方式が有利であると判断

### 【取り組みの進捗】

- 今後3年間の普通教室空調設備整備工事工程

取組内容	H28	H29	H30	H31	H32	目標水準
普通教室への空調整備	検査検討	導入可能性調査				全ての学校の普通教室に空調設備が整備され、快適な学習環境が整う。
		事業者選定			供用開始予定	
				設計・施工		

## ACTION5 ICT 活用による学びの環境の革新

授業で日常的にICTを活用できる環境整備を進めるとともに、デジタル教科書等の導入など、ソフト面の整備を進めます。

(教育支援課)

おもな施策	実施内容
学校のICT環境の革新・整備	① 主体的・協働的な学びを実現するためのICT環境整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの安定した運用のための運用支援を実施</li> <li>・ICT活用研修講座の実施(延べ10回)</li> <li>・学校図書館ネットワークシステムのサーバ機器更新</li> </ul>
デジタル教科書等ソフトウェア面の整備	① デジタル教科書等のソフトウェア面の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行教科書に準拠したデジタル教科書の導入(中学校英語、数学)</li> </ul>

### 【取り組みの進捗】

取組内容	H28	H29	H30	H31	H32	目標水準
ICT活用研修実施	年10回	年10回	年10回	年10回	年10回	すべての小中学校で授業に活用するための電子黒板等のICT環境が整っている。
ICT機器・環境整備	—	電子黒板入替8台	電子黒板入替8台	電子黒板入替8台	電子黒板入替8台	
	—	—	—	タブレット端末導入検討		
デジタル教科書導入	中学校英語 中学校数学 導入	—	—	—	—	デジタル教科書を活用した授業が展開されている。

## ACTION6 英語教育環境の充実

グローバル化する社会において求められる人材育成に対応するとともに、学力としての英語、コミュニケーションのツールとしての英語という2つの面から、英語能力強化のための環境を整えます。

(指導課)

おもな施策	実施内容
教室で英語を効果的に学ぶ環境の整備	① 教室で英語を効果的に学ぶための環境整備 ・「CAN-DO リスト」作成研修会（2回実施 各校英語担当1名参加） ② 短時間学習（小学校外国語活動におけるモジュール学習）を実施 （平成29年実践推進校12校予定）
異文化理解を図り、国際的視野を広げる機会の提供	① 異文化理解を図り、国際的視野を広げる機会の提供 ・夏休み出前講座「レッツ・エンジョイ・イングリッシュ」の実施（中学校9校） ・修学旅行を活用した英語活動の実践を紹介（小学校教員対象研修会）
英語担当教員の英語指導力向上	① 英語科教員の「英語力向上研修」の実施 ・平成28年度2回実施（前掲 上記「CAN-DO リスト」の作成研修会に含む） ② 英語教育に関する小中連携の取組 ・平成28年度英語推進実践校区（西笹川中学校区）の実践を調査

### 【取り組みの進捗】

取組内容	H28	H29	H30	H31	H32	目標水準
小学校英語非常勤講師の配置	2校	12校	20校	30校	38校	すべての小中学校において、教室で英語を学ぶ環境の整備がなされている。
英検ⅠBAの実施（中学校3年生）	—	年1回実施	年1回実施	年1回実施	年1回実施	
四日市市英語指導員（YEF）の配置	11人	12人	13人	14人	16人	異文化理解を図り、国際的視野を広げる機会を提供できている。
出前講座「レッツ・エンジョイ・イングリッシュ」の実施	9校	11校	13校	15校	18校以上	